

A golden retriever and a tabby cat are sitting side-by-side, looking directly at the camera. The dog is on the left, with its mouth slightly open, showing its tongue. The cat is on the right, with its ears perked up. The background is a dark, desaturated image of a city street with damaged buildings and debris. A white sign with a blue silhouette of a person walking a dog is visible on the right side of the background.

ペット同行避難を可能にする ための備えについて

令和7年11月12日
くらし文化部 安心安全課

説明項目

- 1 目的
- 2 発災直後の対応について
- 3 「環境省パンフレット」に基づく事例紹介
- 4 ペット同行避難における在宅避難と避難所避難との比較
- 5 同行避難を可能にするための平時からの備え

1 目 的

令和7年12月14日に実施する「令和7年度ペット同行避難訓練」に先立ち、代表者会議参加者に対しペット同行避難に関する平常時の備えについての啓発を行い、知識の向上を図るもの

2 発災直後の対応について

災害時、市町村で様々な業務が次々と発生

災害の発災により**庁舎・各施設の損傷、職員の負傷**が予想されます。

災害の被害に対して、市の公助力（人的・物的資源）は不足することが予想されます。

このため**国・県外自治体から支援**を受けますが、発災後**3～4日程度を要する見込み**です。

また、発災後**72時間**は、人命の救命救助活動を最優先するため、被災した市民の方々への支援が十分対応できない可能性が高いと予想されます。

このため発災当初の**3～4日間**は市民個々による**自助**、地区・避難所運営組織等による**共助**による対応が不可欠になります。

3 「環境省パンフレット」に基づく事例紹介

災害が起こったら… ～あなたはAさん？ Bさん？～

日頃の備え

ペットのしつけと健康管理

日頃の備え

住まいや飼養場所の 防災対策と備蓄

メモ

万が一に備え飼い主明示も忘れずにしましょう。

Aさんの場合

Aさんは、獣医さんの勧めで必要なワクチン接種や、寄生虫を駆除し、「待て」、「おすわり」の最低限のしつけと、万が一に備えてケージにならす訓練をしていました。

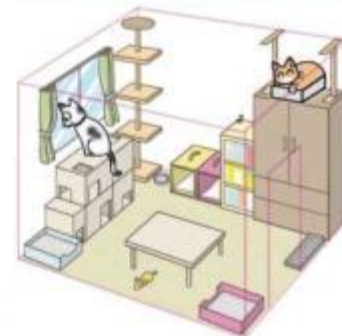
混合ワクチン
接種

犬フィラリア
症の予防

狂犬病予防接種
(犬の場合)

なるべく褒める

Aさんは、家具の固定やガラスの飛散防止対策をし、防災バッグの準備やペット用避難セットも準備して防災マップで避難所の確認もしました。



Bさんの場合

Bさんは、ワクチン接種や、寄生虫を駆除をしようと思いましたが忙しかったのでませんでした。最低限のしつけはしましたがケージに慣らす必要ないと考えていました。



狂犬病予防接種は、毎年1回行う必要があります。

Bさんは、防災バッグの準備をしていましたが、ペット用避難セットの準備や避難所の確認はしていませんでした。



発災当日

発災

発災時の避難について(大地震)

メモ

自宅が安全な場合は、在宅避難も考えましょう。

Aさんの場合

Aさんは、部屋の家具を固定しガラス防止フィルムを貼っていたので怪我もなく、おびえていた猫もケージに逃げて無事でした。

Aさんは、避難所に行くことにしました。



発災当日

ペットとの同行避難

メモ

多頭飼いの場合、全てのペットを連れて避難ができるように、準備しましょう。

Aさんは、避難セット（人・ペット用）とケージを持って、ペットの受入可能な避難場所へ避難しました。

平常時からハザードマップで避難所までの安全なルートを確認していたのでスムーズに避難所に着くことができました。



Bさんの場合

Bさんの家では本棚や食器棚が倒れガラスが割れ床に散乱し、室内を移動した際にBさんも猫も怪我をしました。地震におびえた猫はなかなかできてきません。



Bさんは、防災バッグを持ち、ペットを抱きかかえ一番近い避難所へ向かいました。

途中狭い路地に塀が倒れ、通行できない箇所が何箇所もあり避難所に着くまで長時間かかりました。Bさんもペットもとても疲れしました。



発災当日～5日目

避難所での受入れ

メモ

ペットの情報をまとめておくとう便利です。

発災当日～5日目

避難生活

メモ

支援物資が届くまで5日程度かかる場合もあります。
それまで持ちこたえるのが飼主の責任です。

Aさんの場合

Aさんが到着した避難所はペットの受入れをしていました。ペットもケージに慣れていたのて落ち着いていて、他の避難者やペットとトラブルは起こしませんでした。



避難セットとしてペットフード5日分を用意していたので、支援物資が届くまでペットに与えることができました。

2日目から人間とペットのエリアが分けられましたが日頃のしつけにより、トラブルを起こすことなく対応できました。



※長久手市では、ペットは屋外での飼育になります。

Bさんの場合

Bさんが到着した避難所は、ペットの受入れられていませんでした。受入れている避難所はどこか分からなかったため、ペットとともに避難所の外で一晩を過ごすことになり大変寒い思いをしました。



翌日、やっとペットの受入が可能な避難所に着きましたが、ペット用避難セットを準備しておらず支援物資が届くまで自分の食べ物を分け与えました。

ケージを持っていなかったのてペットが落ち着かずBさんがいないと吠え（鳴く）てしまい、大変肩身の狭い思いをしました。



発災1週間目以降

避難生活

メモ

長引く避難生活に向けてペットの預け先を決めておきましょう。民間の借り上げ仮設住宅ではペットが飼えない場合もあります。

Aさんの場合

避難生活が1週間を超え
ペットシェルターに預ける
ことにしました。

ワクチン接種や寄生虫の
駆除が済んでいることで条
件でしたが、**済んでいたの
ですぐに預けることができ、**
屋間は自宅の片付け、朝夕
にペットの世話をすることが
できました。



Bさんの場合

Bさんは、ワクチンの
接種や寄生虫の駆除して
いなかったため、預け先
に預けるためのワクチン
接種等をするために**動物
病院を探す等、預けるま
でに大変時間がかかり苦
労しました。**



まとめ

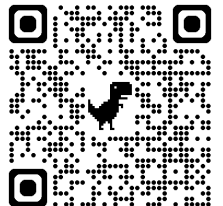
あなたは、**Aさん？ Bさん？**どちらに
なる可能性があるでしょうか
このように普段からの備えが災害時に大き
な差になってしまうことがあります。



何をどのように備えればよいのかは、
「**災害、あなたとペットは大丈夫？人とペット
の災害対策ガイドライン<一般飼い主編>**」
(環境省)

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h3009a.html

を確認して下さい。



4 ペット同行避難における在宅避難と避難所避難との比較

在宅避難	比較要因	避難所避難
◎ 住宅内のため配慮の必要なし	周囲への配慮	✕ におい、鳴き声、毛等の周囲へ配慮が大 動物アレルギー疾患者への配慮が必要 予期しない受傷、逃走のリスクあり
○ 住宅内ため配慮の必要なし 生活環境の変化が少なくストレス小	飼い主、ペット のストレス	✕ 環境変化によるストレスが大 ペットと飼い主が分離されストレスが大
△ 備蓄物資で対応するが、物資を使切っ た場合ヒト用の食物等の代用品で対応	公的サービスの 受益	○ 状況によりペットフード等の物資ニーズ に対応 愛知県獣医師会による巡回診療の可能性

【結論】

ペット同行避難の観点からは、指定避難所は団体生活を行うためペット、飼い主、避難所運営者とも負担やストレスが大きく**在宅避難が優れています**。

在宅避難を可能にするためには①**自宅の耐震化**、②**家具等の転倒防止**、③**水・餌等物資の備蓄**の3つの条件を満たすことが必須になります。

また、避難所に同行避難する場合、**在宅避難の備えに加えて次頁の備えが必要**になります。

5 同行避難を可能にするための平時からの備え

1 必要な物品の備蓄

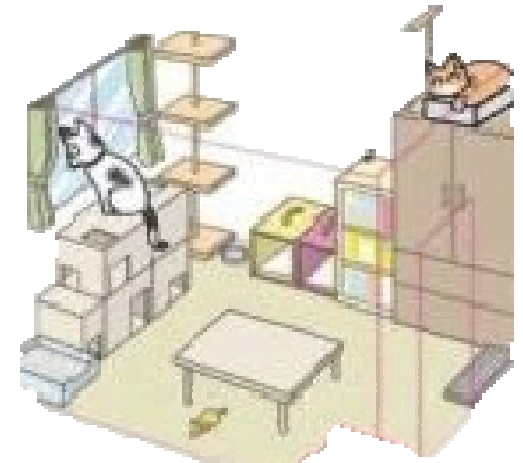


2 必要なしつけ

(ケージ、クレートの順応) の養生



3 家具固定・ガラスの養生



4 必要な予防接種、 寄生虫の駆除



5 ハザードマップ等の 事前確認

